

令和7年度 立川市西砂学習館運営協議会会議録（第4回）（案）

日 時：令和7年7月8日（火）午後6時00分～午後8時16分

出 席：大槇(会長)、加藤(副会長)、長谷川、小笠原、岩元、能村、森、広瀬（敬称略）

欠 席：内金崎、小林

傍 聴：なし

事務局：高木(西砂学習館係長)

1 開会挨拶（会長）

（会 長）：7月に入ったが、暑い日が続いている。体調は大丈夫か。サマーイベントが始まるが、事務局が二つの小学校にチラシを配布したところ、申込受付前から問い合わせがあり、昨日から申込受付が始まったが、多くの申込がある。後ほど申込状況は事務局から説明がある。それでは、次第に従い進めていく。

2 協議、報告及び連絡事項

（1）第3回運営協議会（6/19）の会議録（案）について（資料1）

（事務局）：本日が初見となるので、修正等があれば、2週間以内（7月22日まで）に事務局に連絡をお願いする。

（2）地域活性化講座について

① 認知症予防講座（6/18）の実施分について（資料2）

（会 長）：講師を務められた委員からコメントなどをいただきたい。

（委員A）：限られた時間の中で、出し物はたくさんあり、あれもやりたい、これもやりたいとあったが、コンパクトにまとめたところ、皆さんに楽しんでいただき感謝している。ありがとうございました。

（会 長）：他にどんなところで行っているのか。

（委員A）：先日、地域包括支援センターから9月にリスルホールの大ホールで催物を行うので話があったが、時間の関係で難しくなり、ほっとしている。地域包括支援センターからはどこかをお願いしたいとの話がある。

（会 長）：歌が違うだけでも、体の動きが異なるので、いろんなところでできると思う。参加者も楽しんでいて、脳の刺激もあり、毎年定例的に行っていただければと思う。参加されたB委員、感想はあるか。

（委員B）：老人会でお願いしようと思っている。

② 「サマーイベント～夏休みは西砂学習館へ行こう～」について（資料3,4）

（会 長）：大学生のボランティアについて、どのような状況か。

（委員C）：先月末、中央大にサマーイベントのチラシときらりたちかわを配布し、募集をお願いした。例年だと、いろんなイベントがあるので、1講座あたり1人から2人、バランスよく参加できるように先生が調整している。今週中に連絡があると思う。ただ、8月19日は中央大学の先生の講座があり、私も参加するが、学生の参加は



厳しいと思うが、学芸大学の学生が参加する予定なので安心している。

(会 長)：最終日の 8 月 19 日は委員の協力が少ないので心配である。委員が一人でも多くいれば子どもの面倒が見られる。

(委員 C)：学芸大の学生は去年参加された方か。

(会 長)：名前は分かるのか。

(事務局)：名前は把握していない。

(会 長)：名前が分かったら教えてほしい。

(委員 B)：8 月 5 日の午前と午後は協力できる。

(会 長)：ありがとうございます。協力できる日が分かったら、事務局に連絡してほしい。

当日のキャンセルを見込んで 25 人まで受けているが、出足が順調で良かった。西砂小の児童の申込が多いようであるが、西砂小はくるプレが始まっていないが、来年から始まると思うので、できるだけ早めにチラシを配って、子どもたちに選択できるようにするべきだと考えている。

(委員 C)：午前、午後の人数の違いはあるのか。

(事務局)：今年から 1 日参加ではなく、講座ごとに申し込む方法に変更しており、午前と午後の両方に参加する児童や、午前だけあるいは午後だけ参加する児童と様々である。

(会 長)：途中の出入りはしっかり配慮し、事故のないようにしないといけない。

### ③ 上記以外の講座の実施について（資料 5）

(会 長)：まずはウインターイベントであるが、これからの地域活性化講座の下地になるものであるので、意見を伺いたい。

2 学期の終業式後の 12 月 26 日に予定しているが、内容は未定である。去年は、午前に書き初め、午後はモルック体験を行った。これまで大根田さんに正月飾りや、学習館の職員が天王橋会館で登り龍づくりなどを行ってきたが、正月に関わるものが企画できたと思う。午前の書き初めについて意見はあるか。西砂書道愛好会と西砂会館の二つの団体の先生から協力が得られると思う、内容はどうか。

(委員 C)：子どもにとって正月に向けて、ものづくりは良いと思う。あんまりこだわるものでもないが…。

(委員 D)：書き初めは西砂小の課題になっていないという話もあった。課題になっていないと書道に参加する児童は減ってしまうと思う。

(会 長)：課題になっていないが学校に行くと飾ってある。

(委員 C)：去年も話があったが、書き初めは半紙が配られていなかったようだ。去年参加された児童は半紙を持ってきて書いていたが、西砂小の児童は持ってきていなかった。確認する必要がある。

(会 長)：課題として出されていないから、手本と半紙は配られていなかった。松中小は課題で出されているから、手本と半紙を持ってきていた。だから書き初めは日本の伝統文化であり、経験することは大切だ。指導する側がいろいろ準備することの大変さはあるが、書き初めは大切だ。「ちはやふる」などの正月遊びの体験をし、日本の伝統文化を知ることでも良いと思う。

西砂児童館では、日本の伝統文化を知る、学ぶといった講座を行っているのか。



- (委員E)：講座ではないが、事業計画の中で昔遊びが入っている。例えば将棋は背景も含めて説明して行っている。書道は、当館は松中小に近いので、書き初めを行いたい児童には部屋を用意し行っている。毛筆をとったことがない子にも、触れる体験を都立武蔵村山高校の書道部の生徒さんから全面協力していただいて、小さい子に体験させることを行っている。それは子どもからも好評である。
- (会 長)：学年がある。3年生以上になっているので、ある程度書き初めを行っている子どもが参加している。児童館ではそれよりも下の子もいるので配慮して行っている。
- (委員E)：私の頃は、家で書いたものの中で一番良いものを学校に持っていき、学校でもう一度書いて、最終的に評価されるという段階があった。宿題として書き初めをしてくるという流れがなくなってきた学校もある。
- (会 長)：書き初めなので、3学期になって学校で書き初めを提出することだと思う。年を改めて書いたものが作品になる。
- (委員C)：児童館では昔遊びはいつやっているのか。
- (委員E)：1月の5日と6日に行っている。
- (会 長)：課題はあると思うが、例年と同じように書き初めを行う。正月であるので、ものづくりのようなものが組めたらと思う。
- (委員E)：書き初めは3年生よりも上でということであるが、去年は昼食が出たので3年生以上の子がお昼も食べて午後と同じメンバーでやったと思うが、今年から食事は出ないということになると、午前と午後と切れる訳であるが、午前に書き初めを行うのであれば、午後は1年生から参加できる内容にするとか、そのようにしないと偏ってしまうと思う。もったいないので、考えないといけないところだと思う。
- (会 長)：イベントは午前・午後とし、午前は書き初めであれば3年生以上が対象であるが、午後は1年生から参加できるようにする。引き続きサマーイベントと同じようにお弁当を持ってきてもらう内容になる。1年生や2年生は自宅で食事をした後に参加してもらうようにする。講座は午前と午後に行う内容で、チラシを作成する。まだ時間があるので提案があれば受け付ける。
- (会 長)：次に、にしすな親子塾であるが、西砂児童館の行事予定はどのようなになっているか。
- (委員E)：3月は軒並みいろんな行事が入っていて、全部の日曜日に入っているので、3月の日曜日は厳しい。2月は7日に市の行事があり、28日は併設学童保育所の入所説明会が予定されている。ただ事業者が変更になることも視野に入れると、この期間は引継ぎ期間になるので、少し早めに組んでおけば、万一当社でなくなった場合、次の事業者にこういうことをやっていると伝えられるので2月に行ってほしい。
- (会 長)：2月のいつ頃がよいか。
- (委員E)：2月の21日(土)、22日(日)、23日(月)は三連休になるので、21日(土)か15日(日)だと思う。
- (会 長)：この日程であれば、児童館を会場としてできそうか。
- (委員E)：児童館を会場にする場合は、日曜日が良い。土曜日の午後は併設の学童保育所がある。



(会 長)：日程は2月の8日、15日、22日の日曜日として、内容について意見などはあるか。

(委員E)：サマーイベントで委員から提案があったが、アロマの工作があり、子どもの居場所や親の居場所にもなる。まだ正式にはお願いしていないが、何か児童館で行事をしてほしいと話している。もう一つは富士見町で活動している男性の方で、読み聞かせをしていて、先日子ども未来センターのイベントに出ていて盛況だった。幼児から小学生の低学年向けであれば、その方も良いと思う。

(会 長)：児童館から2名の候補者と日程が示されたので、事務局で調整してほしい。

(事務局)：了解した。

(会 長)：他の委員で何か親子で取り組んでもらいたいものはあるか。E委員は講師と連絡を取り、どの位実現可能性があるのか探っていただきたい。来月の会議でも議論するので、他の委員からも提案があればお願いする。それでは、2月の8日、15日、22日の日曜日に計画できるように進めていく。

(会 長)：次に、西砂川での災害を考えるについてであるが、先ほど事務局から7年度は実施しないと説明があった。以前、私が幸学習館で聞いた話が頭から離れないのであるが、そのへんのことは委員から話していただくが、これまで自治会の方々と災害時の活動について議論してきたが、現在防災関係ではどのような話になっているのか、情報提供いただけるとありがたい。

(委員C)：状況としては、能登の地震もあり関心が高いことは間違いないところだ。従って立災ボの方も学習会をやったが、最初は参加者が少なかったが、結果的には大勢の方が参加していた。あと市議会の関係では災害時に井戸水を使える必要があるということで、市の南の方では井戸があまりない状況で、実際に小学校では11か所の井戸があるが、今は使われていないので、災害時に使用できるよう整備してほしいと、我々が動いているところだ。

これまで立災ボといろんな講座を行ってきたが、一般の方よりも自治会の防災担当があまり参加していなかったのも、各委員もご存じのとおり、自治会と横のつながりを持つために、行っていくことも考えてもよいのではないかと思います。

(会 長)：毎年、自治会の役員が変わってしまって、避難所の運営まで動けない実態があるとの意見があった。そのため防災関係の方が中心となって進めていったらどうかということだったと思う。その後の話はどうなっているか。

(委員C)：結局、自治会と立災ボで進めてきたが、一般の方は参加していても、自治会の防災担当が毎年変わることもあって、上手くいかなかった。災害発生時は自治会が中心になって動かなければならないが、そのようになっていないので、一般はやらなくて自治会に声をかけて行ってきた。

一番のネックは毎年自治会の防災担当の役員が変わるので、災害が起きた時に自治会のメンバーの動きが重要であるが、そのことが浸透されていないことが個人的に気になっているところだ。

(会 長)：立災ボから各自治会に伝えるところまではいつていないのか。

(委員C)：立災ボの中では研修を行っている。自治会を対象にした具体的な動きは聞いていない。



ただ、立災ボも意識は持っているので、相談すれば協力してくれると思う。

(会 長) : 今、委員から現状について説明してもらったが、私達も各自治会の人達が置かれている状況を理解し、発災時に自分達の役割を認識してもらい、自治会の防災担当に講座に参加してもらうかたちでこれまできた。ただ、自治会の防災担当が変わり、ノウハウを伝授したり、引継ぎがないからゼロに戻ってしまっている。そのため、興味・関心のある人をボランティアとして組織し、避難所を運営する際に率先して動ける、指示が出せるかたちになるよう体制を作っていくことが必要だという話だったと思っている。危機的な状況が問題になっている現状を、自治会の人達に伝えてもよいと思っている。仮に災害が発生したとして、西砂では立川第七中学校で避難所が運営できるのかわからない。

(委員C) : 立災ボの人も心配している。市が避難所を指定しているが、発災時に誰が避難所を運営していくのか、制度的に自治会の防災担当が行うことにはなっていない、そこをどうしていくのが課題である。市の防災課の係長が変わり、防災課の職員には立川市民でない人もいて、発災時に地元の間が動かなければならない。そのような組織になっていないことが問題だ。皆さん心配しているところだ。

(会 長) : そういう現状があるから、そのことを知って、関心のある人が名乗りを挙げてくれたならば、地域としては良いということだ。そのため現状を伝えていかないといけない。地域の人達に話をして、知ってもらわないといけないと思う。

(委員F) : 自治会の防災担当の人達が一堂に会し、自治連の人達と話し合ったりはしていないのか。

(委員A) : 自治連には12の支部があるが、支部の人達を集めて何かやっているのかは把握していない。防災に関する現状を知ることは自治連がやることであって、学習館の地域活性化講座でやるべきことなのか、ということもあり、去年、一昨年は行ってこなかった。地域の中では自治会の防災担当がメインになって行うものであるという認識があって、機能していないのであれば一般の人達のための講座をやるのが良いということであり、自治連に特化してやるのはどうなのかと思う。

(委員C) : 今までの経緯は言われたとおりで、この2年やらなかったのはそういうことだったからだ。自治連が動かなければならないが、立災ボもやろうとしているが、行政もそのようには動いていない。災害が起きた時に水をどうするのかということで、今、立川市は小中学校の井戸水を使えばよいということであるが、井戸の数も少ないという問題もあり、結果的に進んでいない状況だ。

市民から挙がっている問題としては、ペットをどうするか、避難所に連れていけるのか、地域によって若干いろんな意見が出ているが、明確になっていない。

いずれにしても、各地域の動きが自治連や市を含めて認識されていない。そのような現状をしかるべき人が焦って心配していることが現状だと思う。

明日、明後日、災害が起こった時に、誰がどのように動くのか明確になっていない。明確にしていく必要があるので、この運協で議論してきた。

(委員F) : 何年も災害を考える講座をやってきて、大事だと思っている、自治会の防災担当を呼んでも、今一つ感触がないという気持ちもする。西砂は密集している土地柄でもない、高松町に比べて安心と思っている住民もいると思う。新しく入ってきた人達は自治会に入っていない人も多いと思う。そういう人達が



いるのに、自治会の人達だけに講座をやっている、分からない人達が今後どんどん増えてくると思う。だから自治会だけに頼るのではなく、住民一人ひとりが意識を持てるような講座をやるのが運協としては良いという気がする。能登の地震でも若い人の力がすごく役に立ったことを聞くので、自治会の防災担当は年齢的に高かったりして、実際にその人達が動けるのか不安だし、もっと若い人達に防災に対する意識を持ってもらったらよいと思う。参加者を中学生や高校生の親子を含めた講座を組めるのであれば、さらに一步踏み込んだことができると思う。

(委員C)：そのとおりだと思う。以前にやったのもそのような認識があったからであり、現状は議会や行政も含めて進んでいない。実際に砂川の人には心配していない。農家には井戸水があり使えるし、災害時には使っても良いと看板に書いてある。市として一番大きなポイントは南である。南には全然ないし、井戸の使い方も明確になっていない。

我々もそのような認識を持って進めてきたけれども、そういうところまで行き着いていないことが現状だ。

(委員A)：組織としてよりも、災害が起こった時は個人でできることを行うのが基本である。心配なのは豪雨の問題で、線状降水帯が発生した時に下水道の処理能力を超えることが、この異常気象の中で身に迫っている課題である。だからそういう時に個人として、家族としてどう行動できるのか、そのような観点で防災講座ができれば良いと思う。

委員が言われたように、周りをみると若い世代が多く、最近自治会の加入勧誘をしたが、13世帯の中で2世帯しか加入しなくて、自治会に入ろうが入らないかは関係なく、地域の住民が協力していかなければいけない。

災害発生時に自分や家族がどのように動くのか、タイムラインがあり、個に応じたプログラムを用意しておくことが大切だ。食料の備蓄など若い人達に対する防災講座は重要である。

(委員C)：私達もそういうことを考えていかなければならないし、立災ボという組織もあるので、自治連や行政も含めて、どう連携していくか考えていかなければならない。小平市にも立災ボのような団体があり、小平市と連携して井戸の活用について一緒に取り組んでいる。我々だけが動くのではなく、大きな観点を持って取り組む必要がある。

(会長)：大きな組織としての自治連があり、その自治連で取り組むべき課題であるが、運協としては地域住民に発信し、意識を向上させるために講座を開いたらどうかという方向で進めていく。

地震だけではなくて、瞬間的な豪雨を含めて、どう対応していくのか、新しい住民に伝えることも重要であると、まとめていくことでよろしいか。今年度実施できるか分からないが、方向性として個人や家庭の防災意識を向上させる目的で取り組んでいくこととする。

(会長)：次に、地域再発見、地元を学ぼう！についてであるが、内容は後で議論するとして、涼しい時期に講座を組んでも良いと思う。

(委員D)：対象が西砂町在住の成人となっているが、以前は親子向けにという意見も出て



いた。成人というと年齢の高い人が多くなってしまうので、例えば今回のサマーイベントのように、学校にチラシを配って親子向けに親子で参加して、この地域を知ってもらい、そういう講座のやり方も考えられると思う。

(会 長)：若い人に参加してほしい願いがある。実際にフタを開けると年齢が高い人が多く、若い人が参加できればという意見があった。

(委員D)：シリーズでやっていくのが良いと思う。

(会 長)：ここに書いてあるように、親子向けに行えば新しい住民も参加してくれると思う。

(委員B)：新しく居を構えた人に、この地域は良いところということをわかっていただきたい。子どもたちが自分のふるさとはこの地域であることを分かってもらうようにしたい。

(委員C)：私も全く賛成で、そういう形で豊泉さんにやってもらった経験から、座学よりも散策が良い。この近隣だけではなく、この前は福生市にも足を運び散策した。この地域のことを知ってもらうには座学だけではなく、散策も必要があると思う。

(会 長)：豊泉さんとお会いして、内容等を詰めていかなければならない。

(委員B)：せめて散策する時は、新しい住民に生活していくのに必要なことも入れてほしい。ただ歴史的なものだけではなくて、生活するうえで役に立つところも入れてほしい。

(会 長)：4月になるとこの地域には花が咲くとか、玉川上水に咲く花とか、マップができると良い。West Wave 立川がマップを作っているが、ドッキングして西砂エリアで文化的なものも含め、日常生活に役立つものができれば良い。

(委員C)：実際にそういうことをやっている人がいる。

(会 長)：この学習館に、西砂町や一番町の大きな地図に、体験したものの発見したものを添付して、最終的にまとめ、西砂町一番町の文化地図みたいなものができると思う。夢を語っているようであるが…。

(委員A)：West Wave 立川の人達が作っている地図は配布されているのか。

(委員B)：良いものであるが、今は配布されていない。細長いものであるが…。

(会 長)：最終的に集約できるものに持っていければ良い。

(委員A)：若い人達が新鮮な感覚でみた時に新しい発見があると思う。

(会 長)：夏休みに子ども食堂と学習支援の取組を行っている人や、子育ての人のためにマップを作っている人もいる。中学生の子ども達に、わが家の自慢として4月にこの花が咲くとか、呂畑にはかきつばたが見えるとか情報を集めてもらって、それを学習館が集約し、1月から12月まで、このエリアに咲く花、樹木などの情報を中学生が持ってきてもらったら面白いマップができると思う。学習館の2階の壁面に動植物から子育てのまちのマップがあるのも良いと思う。

(委員B)：地域包括支援センターでケマネネを集めた会議に出席しているが、この地域の自慢とか集めているが、地域の人達がいらないから、何回も同じことをやっている。

(会 長)：西砂学習館の2階を10m歩いてもらえれば、この地域のことが一目瞭然に分かるようなことをやりたい。楽しいと思う。若い人達にもこの地域が楽しいところだということを分かってもらえれば良い。

(委員A)：豊泉先生に行かれるのは早い方が良いと思う。今からアポを取って行った方が



良い。

(会 長)：時期的には11月又は12月を予定している。

(委員C)：豊泉先生は忙しい方なので、既に予定が入っていると思うので、早く行った方が良い。

(委員B)：常に新テーマをやりたいが、新住民もいるので、新しいことをやるのではなく、基本的なことをやったらどうか。

(会 長)：3年位のサイクルで講座を企画していくのも良い。

(委員B)：新しい発見ではなく、新しい人にこのエリアのことを知ってもらう講座が良い。

(委員C)：去年やったのは、立川駅周辺のことだったので、いろんなことができると思う。

(委員B)：このエリアに特化して、新しい人達に知ってもらいたいという企画で良い。

(3) 地域学校コーディネーターとの情報・意見交換会(第1回・7/22開催)について  
(資料6～10)

(委員B)：資料8～10は、学校のことが分かりありがたい。

(会 長)：先に事務局と打合せをした時に、他の地運協では学校だよりを配っているとの情報があったので、配布されていると思う。A委員、G委員は学校と地域をつなぐパイプ役だと思う。学校の状況が分からないと、いろんなことを聞いても背景までは分からないことがある。今日配っていただいてありがたいと思う。22日までに目を通していただいて、各学校の運営状況を知っていただきたい。

(委員B)：学校だよりが自治会の回覧に回ってきたこともあった。

(会 長)：松中小は回ってくる。今はペーパーレス化になっていて、保護者にも回らない。学習館だからこれだけの情報を集めることができる。読んでいただいて会議に臨んでほしい。

(3) 立川第七中学校の職場体験学習について(資料7)

会長：説明をお願いします。

(委員A)：先日の立川第七中学校の学校運営協議会の中で、進路担当の先生から今年の職場体験の受け入れ先が大変厳しくなっているとお話がありました。そこで、学習館の運営協議会にはたくさんの情報があるので委員の皆様にご協力をお願いしてみますと申し上げ、先生から大変喜んでいただきました。

今年の2年生は昨年より1学級多く、多くの受け入れ先が必要です。皆さんのお知り合いのところで受け入れてくださるところはないでしょうか。よろしくお願いします。

(会 長)：前々から委員とこのエリアの受け入れ先を探してきた。私も錦と羽衣地区で経験している。ここにきて中学生を受け入れてくれる場所が、企業を含めてないので、どうしても開拓していかないといけないので、委員と二人で、4～5年前であるが、工業会は学習館が開拓していないところなので、できるだけ開拓して職場体験に繋がれることができたかと話しを進めてきた。

委員が毎年、そういうふうにコンタクトを取りながら、職場体験の場所として1企業、2企業と増やしてくださった。だけれども現実を聞くと、職場体験先が減少していて、ましてや2年生が1学級増ということで、受け入れてくれる企業がないと



いうことで課題になっている。何か良い解決方法があればよいが、体験先はどこら辺まで行っているのか。

(委員A)：現実を言うと、一昨年は緊急的に日野市まで行った。

(会 長)：今年できた(企業A)はどうか。

(委員A)：たぶんあたっていないと思う。いつも七中は職場体験が1月なので、夏休み期間中に先生があちこち電話をしている。まずは昨年受け入れたところに今年も受け入れてくれるか確認をしている。現実的にはまだ動いていない。職場体験先が立川五中と重なるところもあり、五中がどこに職場体験をしているのか情報を持って、今年もお願いできないかということで進めている。

それぞれ工夫をしているので、どこか職場体験先があるか教えてほしい。

(会 長)：(企業A)も新しくできたので、まだ開拓していないのではないかな。

(委員A)：歩いて行ける距離であれば良い。

(委員B)：この地域には、介護施設が多いが。

(会 長)：その辺は既に開拓していると思う。

(委員G)：生徒が増えているのに受け入れ先の企業が増えていない。また受け入れ先が減少している感じがする。私の娘が七中にいた時は、小平市の小川まで行っていた。

(委員A)：ここの範囲内で考える必要はない。

(委員F)：(企業B)は昭島市の生徒を受け入れているようだ。

(委員A)：その周りにアウトドア用品を扱うお店もある。

(会 長)：(企業C)もある。

(委員B)：(企業D)もある。人数は何人で行くのか。

(委員A)：1グループで2～3人である。

(会 長)：生徒が60人いれば、30か所を探さないといけない。1か所に10人、20人送り込む訳ではない。

(委員A)：1か所に2～3人で、小さなお店に3日間も来られるなんてということもあった。

(会 長)：(企業E)を含めて昭島の(企業B)の周辺をあたって見たらどうか。もっと先に配送センターもあるし、惣菜を作っている工場もある。

(委員G)：受け入れ先を探すにあたって、子どもたちの交通手段を考えないといけない。どこまで移動する時間を取れるのか考えないといけない。

(会 長)：(企業E)周辺はバスで行っても徒歩数分以内で行けると思う。

(委員A)：受け入れますと言ったところが急に辞退され、受け入れられなくなったこともあった。

子ども達が歩いて来ることについて、責任が取れないということで断られたこともあった。状況的に厳しいと思う。どこまで責任を持てるかということもある。

(会 長)：どこまで職場体験先がリストアップされているのか見えていない。

(委員B)：昭島市の代官山はまだ開拓していないと思う。

(委員A)：次回、学校から受け入れ先のリストをもらって、皆さんにお見せできたらと思う。

(会 長)：受け入れ先はどこでもよい。コンビニでも、床屋さんでも。そこでは体験することが学習になっている。



(委員D)：うちには毎年6人位来ている。

(委員A)：皆さん、よろしくお願いします。

(会長)：また、7月22日の学校地域コーディネーターとの意見交換の時にも話されて、それを含めて何か提案できれば良いと思う。

#### (4) 各委員からの報告及び連絡事項について

(委員)：コーディネーターとして、職場体験のことと、七中の家庭科の先生から家庭科の授業の単元の中で、多世代交流があり、小さい子ども達の交流はなすび保育園と交流ができているが、高齢者の方との交流会を秋頃に実施したいので、紹介いただけないかとの話があり、農協の婦人会にお声がけをしている。まだどういう内容で行うのか不明であるが、あたり初めたところである。

また、8月10日(日)11時～15時に西砂会館でイベントを行う。出演するグループは地域のカラオケ愛好会とコーラスのグループ、三味線、七中吹奏楽部とコントラバス独奏となっている。

(委員)：うちも参加する。太鼓と踊りだと思う。

(委員)：今は暑いので、無理をしないで準備をしている。来年は七中の体育館を借りたいという希望がある。

(委員)：下にチラシがあるが、具体的な内容が書かれていなかった。

(委員)：夏休み前の夕涼み会がまもなくある。たくさん来ていただいていて、150人定員で一般が80人の枠しかなく、学童の定員は70人であるが、80人の一般枠は2日で一杯になり、キャンセル待ちの状態だ。子ども達も楽しみにしている。立川市のホームページにも出ているが、熱中症の特別アラートが発令されると、学校が休校になるということもあって、当館は朝から受け入れるということになっているので、子ども達の健康面が心配である。

7月19日から8月25日までは夏休み期間で、子ども達は朝から晩までいることになるが、8月はたくさん行事があるので、子ども達に提供しつつ、次につなげていきたいと思っている。

また、節目の年なので備品の整理が大変で、市の備品やこちらの備品があり、また昔からの備品もあり、整理した状態で次に渡さないといけないので、毎日汗だくになりそうな状況が続くことになる。

(委員)：青少健は6月17日に麦刈りをし、脱穀をした、クッキーを販売し、その売り上げはどこかの団体に還元する。旗をくださった団体があり、今年の松明祭りで披露する。12日は児童館の夕涼み会のお手伝いに行く。

松明祭りが8月16日に行われる。そのための実行委員会が学習館で23日、19時から行われる。暑い中で行われるので、出てくる方の待機場所も考えないといけない。今年は松中小学校が会場になるので、校長や副校長と学校に行くたびに話合っているところだ。当日は暑いと思うが、皆で一生懸命に行うので、来ていただければと思う。

(委員)：市民推進委員会では、今年度の講座は出揃ってきた。具体的に進めていきたい。前回申し上げたが、ノーベル平和賞をもらった人の中で東京都の代表理事の方がいるので、11月1日に講演会を予定している。講師は広島や長崎、外国にも行っ



ているので、講演会に参加してほしい。また、今年も中学生の広島派遣があるのか。あれば七中の生徒も行くのか。

(事務局)：各中学校から代表生徒1名が参加するので、七中の生徒も参加する。

(委員)：市民推進委員会のきらり・たちかわであるが、お囃子を取り上げた。次号はボッチャとモルックのユニバーサルスポーツであるが、年齢、障害の有無を問わず、みんなが楽しめるスポーツを取り上げる。先週、ボッチャとモルックの取材で、火・木・土の3日間行ってきた。モルックはシルバー大学で講座があり、去年の9月から始まり今月最終回となる。今年が一番町の少年野球場を会場とし、雨の日は隣の福祉会館で行う。今年で3年目であるが、1年間しか参加できないので、グループを作ってガニガラ公園等で活動している。モルックは泉体育館で錦町体育会が委託を受けてモルック教室を開いている。市には12の地区体育会があり、モルック大会をやったが西砂川地区体育会は準優勝だった。優勝すれば都大会に出場することができた。

(委員)：西砂パソコンクラブでは、アイムでwordの講座があり、西砂パソコンクラブへの参加者が増えた。今月はサマーイベントが始まるので、我が家ではパワーポイントを使って大騒ぎで作成している。子どもが中耳炎で熱を出して、保育園を休んでいる。いろいろとバタバタしているが、本人は何とか間に合わせると言って頑張っている。皆さん、当日のお手伝いをお願いします。また、ロボットの方はたぶん問題なくできると思うので、こちらの方もお願いします。9月にアイムや学習館でも講座があるので準備を進めていく。

(委員)：地域の中で熱心に活動している人が、5月、6月と2人亡くなった。残念である。自治会の総会が始まっているが、この辺の自治会是对前年度どおりとなっていて、変化のない状況になっている。若手である40代、50代の人やっているが変化がなく、私が一番長老であるが、憎まれ口を聞いている。なかなか上手くいかない状況である。若い連中がなかなか出てこないのが残念だ。一番町傾聴クラブでこの学習館を使っているが、アイムで傾聴入門講座をNHK学園の国立の素晴らしい先生を呼んで、3回の講座を行っている。私たちの会でも6人位参加し、大変に勉強になっている。また、老人施設で老人の話を聞いているが、最近はずっと来てほしいと言われている。新しい人を募集しているが、世の中、人がかわることの必要性が出てきたと思っている。

(事務局)：平和人権プロジェクトでは、今年は戦後80年の節目の年なので、講座に力を入れている。本日、講座のチラシを配布しているので、ご覧ください。講座に伴い展示を行うが、既に市役所の多目的ホールで立川空襲に関する展示が始まっている。展示は各学習館で行う講座に併せて行うとともに、動画も上映する予定となっている。また、今年8月に行う中学生平和学習の広島派遣であるが、19日に事業説明会と学習会を予定している。広島の派遣学習は8月17日から19日までの日程で行う。

(会長)：私からは夢を語ったので特にはない。

### 3 その他

○次回の地域学習館運営協議会の日程について



※次回開催；次回（第5回）は、令和7年9月11日（木）18:00～

<配布資料>

- ・資料1 令和7年度 立川市西砂学習館運営協議会会議録(第3回) (案)
- ・資料2 地域活性化講座：「楽しく健康！認知症予防講座」(大橋会長作成資料)
- ・資料3 チラシ「西砂サマーイベント～夏休みは西砂学習館へ行こう～」
- ・資料4 令和7年度 西砂サマーイベントの応援体制等
- ・資料5 令和7年度 ウィンターイベント・にしすな親子塾等の実施について
- ・資料6 学校の主な予定（7月以降、1学期<予定>）
- ・資料7 中学生の職場体験（市HPより）
- ・資料8 学校だより（西砂小学校） 令和7年4月～7月
- ・資料9 学校だより（松中小学校） 令和7年4月～7月
- ・資料10 学校だより（立川第七中学校） 令和7年4月～6月
- チラシ 生涯学習推進センター 平和人権プロジェクト 企画展  
戦後80年「立川から考える戦争と平和」
- チラシ 立川市生涯学習推進センター主催  
【戦後80年】立川から考える戦争と平和 南エリア編